

## 平成 23 年度 収集情報

項 目	内 容
テーマ	粉製品に繁殖したダニによる即時型アレルギー
調査目的や背景	<p>お好み焼き用ミックス粉やホットケーキミックスなど、様々な種類の粉製品が普及し、一般家庭で利用されている。</p> <p>そのような中で、粉製品に混入したダニを摂取したことによる即時型アレルギーは 1993 年に初めて報告されて以来、国内外で 59 例報告されている。このため、粉製品の開封後の保管方法とダニ汚染の関係及び市販されている粉製品に混入したダニの数とダニ抗原の増殖性の違いについて検討した。</p>
調査結果	<p>今回、粉製品に繁殖するダニによる即時型アレルギーについて調査した文献においては、以下の結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該文献に記載のある 10 症例中 8 症例については、開封後に数ヶ月間室温保存した粉製品（以下、「事故粉」という。）を調理・摂食していた。<sup>1)-3)</sup></li> <li>1 患者において、事故粉と同一銘柄の未開封製品及びダニ抗原でアレルギーテストを実施したところ、前者では陰性であったが、後者では陽性を示した。<sup>1)</sup></li> <li>一度開封した粉製品を一般家庭から 127 袋集め、ダニ汚染を測定したところ、室温保存された 114 袋中 7 袋からダニが検出されたが、冷蔵保存された 13 袋からは検出されなかった。また、製品の保存中の閉じ方を調査したところ、開封部分を折り曲げてタッパーやビニール袋に入れていた 26 袋のうち 2 袋からもダニが検出された。<sup>2)</sup></li> <li>市販のミックス粉（未開封）3 品目と薄力粉（未開封）にダニを添加し培養したところ、培養後 6 週間でミックス粉 3 品目ともにダニ数及び抗原量が薄力粉に比べ増加傾向を認め、1 品目は有意に増加していた。<sup>1)</sup></li> </ul> <p>なお、当該文献には、これまでに報告されている 59 症例の患者</p>

	<p>情報についても記載されており、年代は8歳から67歳と幅広いが、平均年齢は23歳と若齢層に多い傾向であった。また、全症例でダニアレルギーを有していた。</p>
対象業種	<p>一般消費者・飲食店営業・菓子製造業</p>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダニの増加しやすい時期に合わせて、消費者に情報提供を行う。</li> <li>・原材料に粉を多量に使用する製品を製造する事業者に対して、監視時に情報提供及び注意喚起を行う。</li> </ul>
添付資料	<p>(委員限り資料2：以下論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) お好み焼き粉に繁殖したダニによる即時型アレルギーの2例－Inhibition immunoblot法による原因抗原の検討と粉の種類によるダニ数及びダニ抗原増加の検討－(日皮会誌：120(9)1893－1900, 2010(平22))</li> <li>2) ダニ繁殖小麦粉食品によるアナフィラキシーとその対策(小児科, 45：1458－1464, 2004)</li> <li>3) ダニ混入お好み焼き経口摂取によるアナフィラキシーの2例(J Environ Dermatol Cutan Allergol, 2(2)：123-129, 2008)</li> <li>4) コナダニ類の研究 I ケナガコナダニ <i>Tyrophagus dimidiatus</i> の生態に関する研究(衛生動物, vol. 7(1), 1956)</li> </ol>